

14. 若い女性における鉄の吸収

齋藤 宏
 (名古屋大学 放射線科)
 吉川 敏
 (名古屋日赤病院 内科)
 河村 信夫
 (同 放射線科)
 笠原 文雄
 (常滑市民病院 放射線科)
 田宮 正 近藤 智昭 三島 厚
 (名古屋大学 放射線科)

先に正常人と思われる若い女性にはその約1/3に鉄欠乏があり、潜在性の鉄欠乏性貧血があると考えられる点を日血東海地方会で報告したが、今回は同様の20から22才の若い正常と思われる女性の鉄の吸収率を測定した。鉄の吸収率は硫酸鉄の形で4mgのキャリアーを有する放射性鉄を経口投与し、全身計数法により測定した。正常人男子では9%、カリフォルニア大学で測定した正常人女子は12%と男子に近い値を示したが、日本人の若い女性では29%と正常人男子の3倍に達する値がえられた。10名の被検者中1名には明らかに鉄欠乏性貧血を認め、更に他にも潜在性の鉄欠乏性貧血があると考えられる成績を得た。若い正常人女性では鉄の吸収率は男子の2倍は予想できるが、このような高い吸収率がえられたことと耳血などの他の成績とから、正常と思われる若い日本人女性は潜在的鉄欠乏状態にあることがわかる。

*

15. Radioimmunoassay, α -Fetoprotein 率の検討

今枝 孟義 仙田 宏平 山脇 義晴
 (岐阜大学 放射線科)
 宇土 一道 小島 峯雄
 (同 第1内科)

基礎的検討として同一患者血清によるバラツキ、血清を希釈した場合のバラツキ、検者2名の間のバラツキにつき調べたところバラツキの範囲は小さく再現性のよい結果をえた。また既知量の α -fetoproteinを本法によって求めたところほぼ一致する結果であった。臨床的検討

として各疾患別にRIA α -fetoprotein値を求めたところ、正常人55例の内2例が12と13m μ g/mlである以外はすべて10m μ g/ml以下であった。原発性肝細胞癌17例の内2例が17m μ g/ml(Edmondson分類でⅡないしⅢ型)と101m μ g/ml(Ⅲ型)である以外はすべて320m μ g/ml以上であり、最高値は16 \times 10³m μ g/mlであった。胆管細胞癌4例すべてが10m μ g/ml以下であった。転移性肝癌12例の内胃癌からの転移例に158 \times 10²m μ g/mlを認め、他はすべて270m μ g/ml以下であった。肝癌以外の癌17例すべてが20m μ g/ml以下であった。肝臓以外の癌17例すべてが20m μ g/ml以下であった。急・慢性肝炎98例すべてが143m μ g/ml以下であり、肝硬変症78例すべてが320m μ g/ml以下であった。妊婦15例すべてが300m μ g/ml以下であった。以上胃癌の肝転移の1例を除外すれば320m μ g/ml以上の15例すべてが原発性肝細胞癌である結果であった。

質問： 山田 英雄(名古屋大学 第1内科)

① α -Fetoproteinの標準液はBatchにより濃度のバラツキはないか。また他のメーカーのキットとの α -Fetoprotein値の絶対量の比較は可能か?

② 同一肝癌症例で経過に伴い α -Fetoprotein値の変動の著しかったものはないか?

答： 今枝 孟義(岐阜大学 放射線科)

① 標準品について、ヘキストのものと比較検討したが似た値を得ることができた。

② 標準品がなにかからできているかは、メーカーにお問い合わせ下さい。

質問： 齋藤 宏(名古屋大学 放射線科)

Gaの陽性度と癌の増殖スピードとの関係は如何ですか。

答： 今枝 孟義(岐阜大学 放射線科)

癌の浸潤速度とは今回検討しておりません。

*

16. ¹⁹⁸Auコロイド肝シンチグラムにおける肝内胆管拡張の所見

山脇 義晴 今枝 孟義 仙田 宏平
 (岐阜大学 放射線科)
 高井 輝雄
 (同 第1内科)

今回、経皮的胆管造影、開腹手術、剖検によって胆管の拡張が証明されている27例を対象として¹⁹⁸Auコロイド肝シンチグラム上の所見と比較検討した。まず肝シン